

富山県黒部市餓鬼ノ田圃に生育するコケ植物と湿原環境

著者	坂井 奈緒子, 吉岡 翼
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	43
ページ	59-61
発行年	2019-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1517

短 報

富山県黒部市餓鬼ノ田圃に生育する
コケ植物と湿原環境*

坂井 奈緒子¹⁾, 吉岡 翼¹⁾

¹⁾ 富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

**Brophytes at Gakinotanbo,
Kurobe-shi, Toyama Prefecture**

Naoko Sakai¹⁾, Tasuku Yoshioka¹⁾

¹⁾ Toyama Science Museum
1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

餓鬼ノ田圃(北緯36度40分, 東経137度41分, 標高約1,630 m)は, 富山県黒部市宇奈月町にある黒部峡谷トロッコ電車の終着駅樺平から, 南東方向に直線で約3.6 km先, 餓鬼山に続く尾根沿い近くの緩斜面あるいは平坦なエリアである(図1). Googleマップの航空写真(<https://www.google.co.jp/maps/@36.6794112,137.7059179,378m/data=!3m1!1e3>)から, 登山道の南側平坦地は立木のない植生が見てとれた. 餓鬼ノ田圃へは, 標高約600 mの樺平から距離にして約5 km, 標高差約1,030 mの登山道を登る厳しい行程のために訪れる人は稀である. 地名の餓鬼ノ田圃が池塘を意味するように, 本多(1964)の北アルプスのガキ田分布図に本調査地が示されているが, 調査内容はなく, 実際の調査はされていないようである. 平野(1962)のミズゴケ湿原の藍藻では, 本調査地の藍藻も報告しているが, コケ植物についての報告は見つけることができなかった.

池塘に生育するコケ植物については, 富山県内からは, 池塘の多い立山弥陀ヶ原でのミズゴケ相の報告がある(坂井 2017). 餓鬼ノ田圃は, 北アルプスのガキ田分布図の中で最も低い標高にあり(本多 1964), 両所のコケ植物を比較することは興味深いと思われた.

2018年7月, 著者の一人の吉岡が昆虫調査に同行した際, 餓鬼ノ田圃に生育するコケ植物を採取したので, その生育種を報告し, 立山弥陀ヶ原との違いについて考察する.

なお, 調査地のより詳しい環境については, 後日, 昆虫調査報告でされる.

本調査地は, 登山道より南側が特別保護地区のため, 環境省の採取許可(環中中国許第1806285号)を得て行った. 許可を得るにあたり環境省中部山岳国立公園立山管理官事務所や富山県自然保護課に, 入林については林野庁富山森林管理署にご配慮いただいた. 昆虫調査に付随してコケ植物調査を行ったが, 昆虫調査は, 富山県博物館協会の研究助成によって行われたものである. 関係各所にお礼を申し上げる.

2. 調査方法

2018年7月30日に, 餓鬼ノ田圃の池や池塘, 湿地, やや湿った環境に生育するコケ植物を調査した. 主に調査し資料を採取したのは, 登山道の北側2箇所の池(図1の地点A, B), 南側の湿性草原(図1の地点C, D)であった. 南側の湿性草原は, 植生の違いから地点CとDに分けたが, 同じ平坦地に約80 m離れて隣り合っていた. 各地点で見つかったコケ植物は素手で採取し, 博物館へ持ち帰り, 実体顕微鏡及び光学顕微鏡下で種類を同定した. 採取した資料は富山市科学博物館植物収蔵庫(TOYA)に保管されている.

3. 結果と考察

登山道北側の地点A, B(図2, 3)の池の水中に, コケ植物は見つからなかった. 地点Aの池の近くの土上にはミヤマサナダゴケ *Plagiothecium nemorale* (Mitt.) A. Jaegerとクモノスゴケ *Pallavicinia subciliata* (Austin) Steph. が生育していた. 地点Bの池の近くのやや湿った土上にはコチョウチンゴケ *Mnium heterophyllum* (Hook.) Schwagr., ナンブサナダゴケ *Plagiothecium laetum* Schimp., オタルヤバネゴケ *Cephalozia otaruensis* Steph., エゾミズゼニゴケ *Pellia neesiana* (Gottsche) Limpr. が生育していた. 上記の種類は, 低地から山地にかけての適湿から少し湿った土上で普通に見られる種であり, 景観と生育種から池の周辺は湿原ではないことがわかる.

登山道南側の地点C(図4)は, スゲ属が優占する湿性草原で, その中に湛水している池塘が6つ, 乾いた池塘が3つあった. 湛水している池塘の長径は1.2~4.5 m, 水深は3~90 cmとばらつきがあった. 池塘の岸辺の浅い水中や, 陸地の湿った土上でハクサンミズゴケ *Sphagnum acutum* Warnst. var. *hakusanense* Warnst. が見つ

* 富山市科学博物館研究業績第549号

かった(図5)。ハクサンミズゴケは、高山帯の池塘やその周辺に生育する種類であり(滝田, 1999)、弥陀ヶ原で記録されているが(鈴木, 1978)、坂井(2017)の2009年の調査では確認されていない。本種は、地点Bより東に100 m程行った小さな凹地の湿った土上でも僅かに生育していた。本調査地で見つかったミズゴケ類は、本種のみであった。標高1,760~1,950 mの立山弥陀ヶ原では15種類のミズゴケ類が記録されており(坂井, 2017)、餓鬼ノ田圃は極めて小規模なエリアであることを差し引いても、ミズゴケ類の少なさが際立つ。地点Cの池塘近くの湿った土上にササバゴケ *Calliergon cordifolium* (Hedw.) Kindb. (図6) とナンプサナダゴケ *Plagiothecium laetum* Schimpが生育していた。ササバゴケは、湿地に群生する種であり、立山地獄谷(坂井, 2008)や天狗平(坂井, 未発表)でも確認されている。調査時、湿性草原のスゲ属の下やや湿った土上で見つかったハクサンミズゴケやササバゴケは、雪解け水や雨量が多い時季は、水に浸かる環境で生育していると考えられる。地点Cは、ハクサンミズゴケとササバゴケの生育状況やミズゴケ類の少なさから、湿原の乾燥化が徐々に進み、湿性草原に遷移していると推測される。

地点Dはヤマドリゼンマイが広がる湿性草原であった。ヤマドリゼンマイの生育密度が低い所で見つかったウマスギゴケ *Polytrichum commune* Hedw. は、適湿地からやや湿った場所に生育する種類であり、地点Dは雪解け水や雨量が多い時季でも湛水されにくく、一年を通して地点Cよりも乾燥していると考えられる。

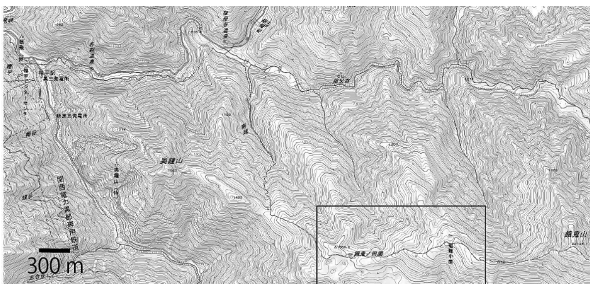


図1 調査地。(国土地理院ウェブサイトの地図 (<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>) に地点名(A~D)を付けた。)

コケ植物の生育種から見て、餓鬼ノ田圃において湿原は地点Cのみにあったが、生育種は少なく、乾燥化が進んでいるように思われる。地点Dは、以前は湿原であったが、乾燥化が進み、湿性草原になっているのではないかと推測される。コケ植物の生育種類は少なかったが、近年立山で確認されていないハクサンミズゴケが生育することは興味深く、特筆すべき点である。



図2 地点Aの池。



図3 地点B. 池の土手部にコケ植物が生育していた。



図4 地点C. スゲ属が優占する湿性草原。左端に池塘がある。



図5 地点Cの池塘の岸边から陸に生育するハクサンミズゴケ *Sphagnum acutum* var. *hakusanense*.



図6 地点Cの湿性草原の中で生育するササバゴケ *Calliergon cordifolium*.



図7 地点D. ヤマドリゼンマイが一面に生育していた。

4. 引用文献

- 平野 実, 1962. ミズゴケ湿原の藍藻. 植物分類・地理, 20 : 322-341.
- 本多啓七, 1964. 日本北アルプスにおけるガキ田の生態. 北アルプスの自然 : 173-192.
- 坂井奈緒子, 2008. 富山県立山室堂平周辺の蘚苔類. 植物地理・分類研究, 56 : 99-107.
- 坂井奈緒子, 2017. 立山弥陀ヶ原から天狗平のミズゴケ相. 蘚苔類研究, 11 (9) : 260-264.
- 鈴木兵二, 1978. ミズゴケ類2種類以上の湿地湿原目録. 吉岡邦二博士追悼植物生態論集 : 234-245.
- 滝田謙譲, 1999. 北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について. *Miyabea*, 4 : 1-84.